

東日本大震災

15周年記念の祈り



十三浜でのわかめボランティア

午後2時46分の黙想

–同じ時 想いを一つに 皆で祈りを–

–すべての逝去者、困難のうちにいる方々を覚えて–

2026年3月11日（水）午後2時15分

※ 札拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。札拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

ひがしにほんだいしんさい しゅうねんきねんいの
東日本大震災 15周年記念の祈り

この祈りは午後2時15分から用いてよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

ともに集う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに

悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。
この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。
一同 懐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければならないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対
して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。
あたら いのち あゆ こころ したが さか あらわ
新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、
すく ぬし ねが
救い主イエス・キリストによってお願ひいたします アーメン

聖歌 第424番

『日本聖公会聖歌集』をご参照ください。

『日本聖公会聖歌集』をご参照ください。

とく とう
特 話

司式者 しゅ みな
主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 いの
祈りましょう

てんち つく めし しゅ いま ひがしにほんだいしんさい はっせい まん ねん ひ
天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満15年の日を
むか とも いの つど ひがしにほんだいしんさい じしん つなみ
迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、
とうきょううでんりょくふくしまだいいちげんしりょくはつでんしょ じ こ おお く なん う ひとびと
そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々
のために祈ります。またその日から今日に至るまで、幾多の災害が日本国内にお
いて、また世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお
こんなん せいかつ つづ ひとびと おも いの なか ぎせい ひとびと いま
困難な生活が続いている人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励
ましのみ力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、い
まだに小さくされた人たちの苦しみが続くウクライナ戦争やパレスチナの虐殺
あらそ にく た せかい
をはじめとする争い、憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたち
そうぞう うつく かいふく ちい うつわ もち
があなたの創造の美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、
ちから みちび あた くる なや ひとびと とも あゆ しゅ
力と導きをお与えください。苦しみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリスト
ねが
トによってお願ひいたします。アーメン

ともに聞く

司式者 せいしょ ことば き
聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

だい ろうどく
第1朗読

朗読者 だい ろうどく しょ だい しょ せつ
第1の朗読は、イザヤ書 第25章 7節から (イザヤ25:7-10)

7 しゅ やま
主はこの山で

たみ かお おお
すべての民の顔を覆うベールと
こくみん おお やぶ
すべての国民にかぶせられている覆いを破り

8 死を永遠に飲み込んでくださる。

しゅ かみ かお なみだ ぬぐ
主なる神はすべての顔から涙を拭い

たみ はじ ち け さ
その民の恥をすべての地から消し去ってくださる。

たし しゅ かた
確かに、主は語られた。

9 その日には、人は言う。

み かた わたし かみ
見よ、この方こそ私たちの神。

わたしたち かた ま のぞ
私たちはこの方を待ち望んでいた。

かた わたし すぐ
この方は私たちを救ってくださる。

かた わたし ま のぞ しゅ
この方こそ私たちが待ち望んでいた主。

すぐ よろこ おど
その救いに喜び踊ろう。

10 主の手はこの山にとどまる。

朗読者 第1の朗読を終わります

詩編 第34編 1～10節

1 私はどのような時も主をたたえよう || 私の口には絶え間なく主の賛美がある

2 私の魂は主を誇り || 苦しむ人は聞いて喜ぶ

3 私と共に主を崇めよ || 共に御名を崇めよう

4 私が主を尋ね求めると、主は私に答え || あらゆる恐怖から助け出してくれた

ださった

5 主を仰ぎ見る人は輝き || 耻めに顔を伏せることはない

6 苦しむ人が呼び求めると、主はこれを聞き || あらゆる苦難から救ってくださった

7 主の使いは主を畏れる者の周りに陣を敷き || 彼らを助け出した

8 味わい、見よ、主の恵み深さを || 幸いな者、主に逃れる人は

9 主の聖なる人よ、主を畏れよ || 主を畏れる人は乏しいことがない

10 若い獅子は獲物がなくて飢えるが|| 主を尋ね求める人は、いかなる良いものも欠けることがない

福音書

朗読者 ルカによる福音書 第21章 25節から (ルカ 21:25—28)

25「そして、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂う中で、諸国の民は恐れおののく。26人々は、これから世界に起こることを予感し、恐怖のあまり気を失うだろう。天の諸力が揺り動かされるからである。27その時、人の子が力と大いなる栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。28このようなことが起こり始めたら、身を起こし、頭を上げなさい。あなたがたの救いが近づいているからだ。」

朗読者 ルカによる福音書を終わります

*説教 北海道教区主教 マリア・グレイス笹森田鶴 主教

*沈黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

*打鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 東日本大震災によるすべての犠牲者を覚えます
主よ 永遠の平安をこの人々に与え

会衆 絶えざるみ光をもって照らしてください

しとしんきょう 使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖靈によつて宿り、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖靈を信じます。聖なる公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

へいわ あいさつ 平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの平和です

会衆 わたしたちは主のみ名によって出会い、主の平和を分かち合います

司式者 平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ささ 獻げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 主の救いのみ業に感謝し、ともに賛美を獻げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を獻げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 すべてのものは主の賜物

一同 わたしたちは主から受けて主に獻げたのです アーメン

いの ともに祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言っててもよい。

司式者 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために、ことに東日本大震災を覚えて祈りましょう

司式者 慈しみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは15年を経た東日本大震災を覚えて祈ります。どうか、被災地にある人、避難生活を強いられている人、特に日本社会の中で生きることの困難に苦しむ人、将来の希望を見い出せない人を支えてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 原子力発電所事故により、失われた自然と人々の生活を覚えます。故郷を離れて生活する人、危険な作業に従事する人とその家族をお守りください。そして政治と社会に責任を持つ人々に正しい道を歩ませてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 わたしたちもまた、これらの苦難をつねに覚えることができますように。日本聖公会の被災者支援の働きを強めてください。そしてわたしたちも思いと力を合わせて、共に歩み続けることができるよう導いてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 いのちの源である主よ、東日本大震災のすべての犠牲者、そして世界各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたの腕の中に抱き、永遠の安らぎを与えてくださいますように

会衆 主よ、これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願ひいたます。アーメン

しゅ いの 主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 しゅ あわ あた
主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 しゅ あわ あた
主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

てん ちち
天におられるわたしたちの父よ、

な せい
み名が聖とされますように。

くに き
み国が来ますように。

てん おこな ち おこな
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

ひ かて きよ あた
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

つみ ひと
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

ゆうわく
わたしたちを誘惑におちいらせす、

あく すく
悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ 感謝

司式者 ともに祈りましょう

すべてのものの 源 である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子と
の出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、
み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたした
ちがすべての人びとと分ち合うことができますように。そして聖霊の導きにより、
あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。またあなたがわたし
たちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほ
めたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いたしま
す アーメン

しゅ 主 と と も に 行 く い

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 かぎ あい めぐ かみ よ ひと よ さ ひと ぜんこうかい こ
限りない愛と恵みの神が、世にある人と世を去ったとの全公会を、み子
イエス・キリストによる復活とみ国の喜びに導いてくださいますように

会衆 アーメン

は けん し ゆう わ 派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 かみ ひと つか い
神と人とに仕えるために行きましょう

会衆 しゅ な
主のみ名によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。



聖歌 第465番

1 し すけき かわの き一しひれ を す ぎくと きに も
 2 む らがる あたは た一けりえ て か めくと せむ も
 3 う れしや 十字架 の一うえ て が がくと は死 ると
 4 お おぞら はまき さ一られ て は くと はる と

う きなや みのあ ら う みを わた う くと おだ に も
 こ ころも るもの あら みび ても わの たぞ ゆく くた う と
 お もいに くずお れ う みを た みた みた る た ウ と
 つ みの子 らはさ わ ぐと か に た よ う み は
 こ こ ろ や す し か み に よ り て や す し
 (ここ ろ) (やす し)

When peace like a river attendeth my way
 Horatio Gates Spafford (1828-1888)

PEACE
 Philip Paul Bliss (1838-1876)

1 しずけき川の岸辺を 過ぎゆくときにも
 憂き悩みの荒海を 渡りゆくおりにも

(おりかえし)

心 やすし 神によりて やすし

2 群がる仇は たけりて 囲めど攻むれど
 試むる者 荒びて のぞみを碎くとも

(おりかえし)

3 うれしや 十字架の上に わが罪は死にき
 思いに くず折れし身も 主をたたえ歌わば

(おりかえし)

4 大空は まき去られて 地は崩るるとき
 罪の子らは さわぐとも 神による み民は

(おりかえし)

詩55：19 1ペト2：24 マタ24：29-31並行



この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、『日本聖公会聖歌集』（2006年）、『聖書 日本聖書協会共同訳』（2018年）から抜粋したもので、日本聖公会東北教区主教 主教 フランシス 長谷川清純が、救主降生 2026年3月11日の東日本大震災15周年記念の祈りでの使用を許可したものである。